

大使全書

全

17	第	十	類
函	一	冊	大
上	架		

国立公文書館

分類

排架番号

2 A

33-6

④ 424

424

大政官
記
録

大使ノ典ハ既ニ古シ大阿柄ヲ倒ニシテ外交ノ禮
面ヲ凝ス祇教禍ヲ防キ鎖國ノ令久ク國運ヲ縮

皇上龍飛政治豹變肇テ開國ノ規模ヲ弘ニシ文明ノ德
化ヲ宣ハ是ニ於テ明治四年辛未十月特命全權大使ヲ
命シ歐米ノ締盟諸國ニ遣シ即位以來ノ聘問ヲ修メ反
正而後ノ治體ヲ告ケ列國ノ公法ニ基キ獨立自主ノ國
權ヲ全クシ交際ノ禮節ニ因リ和親貿易ノ更証ヲ篤ク
ス寔ニ無前ノ威旨ニシテ曠代ノ偉譽タリ夫アンバツサ
トルヲ派遣スルハ歐米輔車唇齒ノ諸國ニ於テモ猶希
ニ在ル隆典ト稱ス况ヤ我邦千古ノ廢典ヲ擧ケ一視全
仁ヲ圖ルヲヤ故ニ各省皆理事官ヲ撰拔シ隨行シテ文

明諸國ノ文物ヲ觀察廣訪セシム大使ノ至ル處各國ノ
 皇帝及ヒ政府人民ミナ意ヲ加ヘテ優待敬遇シ益兩國
 ノ親睦ヲ厚クシ交際貿易ノ年ニ感ナラシメテ望マサ
 ルナシ其友誼ニヨリテ各國ミナ其政法兵制工藝貿易
 ノ利害得失ヲ歷聘ノ餘ニ富目檢察セシメ更ニ理事官
 ヲ導キ其節目ヲ詳告シ敢テ隱秘スル所ナシ是ヲ以テ
 衆負ミナ其實ヲ筆記蒐録シテ以テ復命ス爾來國歩ノ
 進ニ裨益ヲ興ヘ開明ノ運ニ効驗ヲ發シ之ヲ上ニシテ
 百寮師々ミナ文理密察ニシテ庶績咸熙リ之ヲ下ニシ
 テ丞民欣々ミナ智識闡發シテ治化ニ草偃セシム其功
 モ亦昭々ナリ憶フニ方今四海兄弟ノ如ク越裳ノ九譯
 ヲ煩サ、ルモ千里外ノ人ヲ以テ千里外ノ地ヲ踏ミ殊
 俗ノ人ニ就キ絶域ノ情ヲ接ル寒暑候ヲ異ニシ衣食嗜

ヲ殊ニシ其間必ス困難ニシテ願ル苦辛ヲ要シタルイ
 恐ラクハ意想ノ外ニアラシ然則其報告セル書類ハ散
 紙斷編モ亦愛護シテ寶閣ニ藏スヘシ曩ニ祝融災ヲ逞
 クシ六年皇城ノ炎火ニ烏有トナリタルモ猶大使ノ行
 李ニ原案ヲ存セルハ亦採拾スヘキアリ今年九月大使
 復命ノ後大使事務局ヲ開キ是ヲ整頓スル一回更ニ八
 年三月ニ再ヒ其局ヲ開キ小官等ヲシテ此事ニ從事セ
 シノ爾來殘片ヲ回祿ノ灰ニ拾ヒ遺文ヲ散佚ノ筐ニ求
 メ百方搜索シ方々盡シ校讐増補缺漏ナキヲ務ムト雖モ
 猶集成ニ於テハ遺憾ナキ能ハス且當時理事官諸負今
 ニ要劇ニ居リ齋歸書類盡ク整頓譯述シ難キヲ告ク如是
 ハ姑ク之ヲ他日ニ付シ本年一月局ヲ結ヒ總計書類四
 十一冊正副ニ具シテ進呈ス別紙目錄ノ如シ乃チ其

正ハ之ヲ太政官ニ藏シ其一ハ外務省ニ下付シ之ヲ永
久ニ傳ヘテ照會ニ資セハ國ノ幸福ナリ因テ謹テ此ヲ
以テ具狀ス

明治十年一月

外務大丞田邊太一
權少史金井之恭
權少史久米邦武

大使事務書目

- 一 大使全書 全一冊
- 一 本朝公信 全一冊
- 一 本朝公信附屬書類 全三冊
- 一 大使公信 全一冊
- 一 謁見式 全一冊
- 一 條約談判書 全一冊
- 一 在米雜務書類 全一冊
- 一 在英雜務書類 全一冊
- 一 在佛雜務書類 全一冊
- 一 發佛後雜務書類 全一冊
- 一 回覽日記 全拾五冊

合計貳拾七冊

理事官視察官取調書目

一 司法省理事功程

拾冊

小冊 米國司法略制

對問筆乘

新約克裁判局略言

一冊

全州懲役場徒囚規約

蘭律小言

論氏英法小言

四冊

加利州典

四冊

見聞筆乘

一冊

一文部省理事功程

六冊

一大藏省理事功程

六冊

小冊 米洲聯邦戶籍整定條例

亞米利加合衆國法律書略譯

一冊

全外國人歸化之法

合衆國戶籍取調表

一紙第一冊際

由太郡賦湖府稅則並聞書

米國大藏省職制並處務手續聞書

一冊

合衆國々稅事務實視錄

紐育府政聞書並諸規則譯

紐育府馬車稅則譯

一冊

勸農見込書

萬國通私法

版本

三冊

一 式官内省 理事功程

一冊

肥田為良

吉原重俊

川路寬堂

杉山一成

報告理事功程

一冊

省 理事大綱

肥田為良報告

外交關係事務調查書

吉原重俊報告

和蘭水理堤防取調之儀付申牒

川路寬堂

報告

一 報 内海忠勝 告 理事功程

一冊

小冊 英國地方事務取調書

一 報 中山信彬 告 理事功程

一冊

小冊 英國地方事務質問拔萃

清國案内

一 岩山敬義 理事功程 一冊

一 英國カレンレストル農學校大意

全國獸醫學校生徒規則及法度

英倫農業會社

准許狀 准許狀中規條

內則 議定

華威頓府勅農審議制

全事務章程

一 高野正風 視察功程 三冊

一 小川 工事 一冊

農事 一冊

税法

免銀鋪取説

税關規則

華威頓府勅農局制度及賞與大略

一 安川繁武 視察功程 十一冊

一 當 英國議事院實見録 三冊

英國政事概論 後六冊

英國新聞紙開明鑑記 二冊

共三版本

合計四拾壹冊

第一節

對等ノ權利ヲ存シテ相互ニ凌辱侵犯スルヲナク共ニ
此例五格ヲ以テ禮際ノ殷勤ヲ通シ貿易ノ利益ヲ交ユ
此レ列國條約ヲル所以ニシテ而シテ國ト國ト國ヨリ對
等ノ權利ヲ有スルヲ當然ナレハ其餘約モ亦對等ノ權
利ヲ存スヘキハ言ヲ待サル事ナリ

故ニ地球上ニ國レテ獨立不羈ノ威柄ヲ備ヘ列國ト相
聯並此肩シテ昇位平均ノ権力ヲ誤ラズ能ク交際ノ誼
ヲ保全シ貿易ノ利ヲ齊一ニスルモノ列國公法ヲツラ能
ク強弱ノ勢ヲ制履シ衆寡ノ力ヲ抑裁シ天利人道ノ公
義ヲ補弼スルニ由レリ是以テ國ト國ト對等ノ權利ヲ
存スルハ乃ハ子列國公法ノ存スルニ由ルニ云ベ

レ

大正

本其國ノ人民其國ヲ愛スルハ亦自然ノ止ムベカラシ
ル處ナリ既ニ其國ヲ愛スルノ誠アル其國事ヲ憂慮セ
ルハハナラバ憂慮已ニ此ニ及フ苟モ之ヲ實務上ニ徴
シテ我國ニ有スル權利ノ何ゾヲ審察セザルハカラバ
能ク之ヲ審察スルニ於テ果シテ其權利我ニ存シテ決
シテ或ハ之ヲ他ニ去シテ存セザルヲ能ク之ヲ認
識シ之ヲ認シ我國ニ對テ權利ヲ失シ他ニ凌辱
被ルセリ此則五格ノ道理ヲ得ザレバ寇勦奮發シテ
之ヲ回復シ其凌辱ヲ雪ジ復元セザレバ道理ヲ謀求ス
ルハ其國底正ニ務ムル職任ニシテ其國民タルノ道理
ヲ盡スルハ亦此ニ在リ而シテ其凌辱被ルヲ復クザレバ
道理ヲ謀求スル之ヲ列國公法ニ照シテ其條約ノ正理ニ適スル
ハ審判ヲ務ムルカハカカラス

本
政
論

支ニ我國海峽五邦ニ條約ヲ結ビ國內ノ形勢如何
ソヤ殊ニ世襲國ノ習俗固結シテ開港ノ事ヲ拒ムル
ニ當リテ權利ヲ論ジ發スルニ此ニ當リテ此ニ對
テ凌辱被ルハ私斷ヲ以テ此全國存亡ニ關係スル一大事
件ヲ明自正法ニ論ジ其論ヲ才奪奪決ナル處置ヲ以テ
其事時ヲ了局セズ其目的一時ヲ擬定シテ固執スル
經過スルノ方略ニ出ス其事情正ヲ得タルヲ變テ難
到底守吏ノ懶惰ト姓息トニ由ラテ交際上其營ヲ得
テ夥多ナルノミナラズ貿易上ニ亦害甚ノ程ヲ盡ス能
ハサルモノ亦少ナラス而シテ其隣我國內ノ多事ニ
由リ強弱ノ勢ニ乘テテ復我權利ノ際限紛亂シテ或
ハ至極地ヲ極ルテアルニ至リ益至管ノ利ヲ失シ窮極
如何ヲ知ラズニ至ラントモシニヨリ政府更張ノ始

本
政
論

リ既ニ失ヒシ權利ヲ回復シ凌辱侵犯セラル、
比例互格ノ道ヲ盡サント欲スト雖トモ従前ノ條約未
ク改マラズ旧習ノ弊害未ク除カス各國政府及ク各國
在留公使モ尚東洋一種ノ國體政俗ト認メテ別派ノ處
置慣手ノ談判等ヲナシ我國律ノ推及スベキ事モ之ヲ
彼ニ推及スル能ハズ我權利ニ歸スヘキ事モ之ヲ我ニ
歸スル能ハズ我規則ニ從ハシムヘキ事モ之ヲ彼ニ從
ハシムル能ハズ我税法ニ依ラシムベキ事モ之ヲ彼ニ
依ラシムル能ハズ我自在ニ處スヘキ條理アルモ之ヲ
彼ニ商議スベキ事ニ至リ其他凡ソ中外相關係スル事
々皆々彼異對等東西比例ノ通誼ヲ竭ス能ハス甚シキ
ハ公使ノ暴怒ニ由ラ公然タル談判モ困難ヲ受ルニ至
ル抑對等國ノ政府ハ在留公使ノ不可ナルモノアルハ

公法ニ據ラ是ヲ其本國政府ニ逐ヒ還ス程ノ權ヲ有スル
ナルニ其事体如何ノ凌辱侵犯ヲ受ルニ至ラハ甚モ對
等並立ノ國權ヲ存スト云フベカラズ以例互格ノ交際
ヲナスト云フベカラズ故ニ痛ク其然ル所以ヲ及願レ
分裂セシ國體ヲ一ニシ渙散セシ國權ヲ復シ制度法律
駁雜ナル弊ヲ改メ專ラ專擅拘束ノ餘習ヲ除キ寬縱簡
易ノ政治ニ歸セシメ民權ヲ復スルヲ從事シ
漸ク政令一途ノ法律同轍ニ至リ正ニ列國ト並肩スル
ノ基礎ヲ立ントス宜ク従前ノ條約ヲ改正シ獨立不羈
ノ條約ヲ訂スヘシ従前ノ條約ヲ改正セントセバ列國
公法ニ據ラザルベカラズ列國公法ニ據ル我國律民律
貿易律刑法法律税法律等公法ト相反スルモノ之ヲ變革
改正セザルベカラズ之ヲ變革改正スルニ其方法異置

ヲ考案セリルベキラス之ヲ考案スルハ之ヲ實際ニ施
行スル或ハ一年ヲ期シ乃至二三年ヲ期ス可キ者アリ
テ一朝一夕ニ其事ヲ了スベキニ非スト考ハザルヲ得
ス而シテ條約改正ノ期限來申年五月中即チ西曆千八
百七十二年五月一日ヨリ其議ヲ始ムハキ明文アリ
我政府此際ニ當テ此事ヲ願ル感業ヲ興スハキ一大
機會ヲ得ルモノト雖モ現場ノ形勢ニ由リ其事ヲ督促
カレ順序及、時限猶豫ナク切迫ニ及フ片ハ尙困難ヲ
受ケルク一々機會ニ當レリト云フベシ如何トナレハ
各國公使ニシテ此改正ノ議ヲ考案スルモソ各自其國
ノ利益ヲ測算セシテ用働シ哉國ノ政俗公法ニ當ラザ
ルヲ以テ却テ自恣ノ所志ヲ逞スル為メ正大公明ノ理
ニ物ニ制度法律教條ヨリ百般ノ諸規則普通ノ公義ニ

大正
七年
五月
一日

及セルヲ責メ空期ノ時限ヨリ直ニ普通ノ公法ヲ施行
スベシト請求スハシ然ルニ事情急速行ニ難キヲ以テ
之ヲ拒辭スル所ハ必ズ之ニ換ルノ請求ヲナシ終ニ威
力ノ談判ニ涉リ其弊害ヲ招クモ量ルベカラズ故ニ姑
息ノ改正ハ益々國ノ權利ヲ失フ基トナル事未変ニ考
ヘテ判然タリ此レ改正ノ機會困難ヲ受ルノ憂アリト
スル所以ナリ故ニ此困難ヲ受クハキ機會ヲ轉シテ風
業ヲ起スベキ機會トスルハ極機ノ一轉間ニアリテ其
關鍵指ニ全權ノ使節ヲ各國ハ差遣シ一ハ我政体更新
ニ由テ更ニ和親ヲ篤スル為メ聘問ノ礼ヲ修シ一ハ條
約改正ニヨリ我政府ノ目的ト期望スル所トテ各國政
府ニ報告商議スルニテ此ノ報告ト商議ハ彼ヨリ論
ズントスル事件ヲ我ヨリ先發シ彼ヨリ求ル所ヲ我ヨ

大正
七年
五月
一日

り彼：求ル所以ナレハ議論ニ伸ル所有ニ必ス我論説
ヲ至當ナル事トシ之ニ全意シ相當ノ目的ト考按
與テ、施行スル時限ヲ大凡三年ヲ延ルノ談判ヲ整へ了
ルニ至難ク事ニテラサルハシ
此報告ノ商議ハ列國公法ニ據ルハキ改革ノ旨向テ報
告ニ且之ヲ商議シ實地ニ之ヲ我國ニ施行スルヲ要義
トタルニ由リ其實効ヲ檢知スル為ニ歐亞諸州開化最
速ク國際諸法律諸規則著實務ニ察シテ妨ケナク親
見ニ其公法然ルハキ方法ヲ採リ之ヲ我國民ニ施設ス
ル方路ヲ圖納スル亦緊要ノ事務トス故ニ全權ノ使節
ハ全權理事ノ常領何人ヲ附從シ之ニ書記官通譯官ヲ
附屬セシメテ全權理事常領ハ之ヲ各課ニ分テ各共至

任ノ事務ヲ擔當スハシ乃チ

第一課 制度法律ノ理論ハ其實際ニ行ルハ處ハ

研究ニ外國事務局議事院裁判所會計局等ノ各課

ハ現ニ其事務ヲ履行ノ景況トシテ親見シ之ヲ我國ニ

採用シテ施設スハキ田納ヲ立ツハシ

第二課 理財會計ニ關係スル法則租稅法國債紙

幣官民為番火災海上並雜受合等ヨリ貿易工作汽

車電線郵便ノ諸會社金銀鑄造所諸工場等ノ方法

規則ヲ研究シ及ニ其條裁ト現ニ行ハルハ景況ト

ヲ親見シ之ヲ我國ニ採用シテ施行スハキ目的ヲ

立ツハシ

第三課 各國教育ノ諸規則乃チ國民教育ノ方法

官民ノ學校取建方費用集合ノ法諸教科順序規則

又等級ヲ興フル免狀ノ式等ヲ研究シ官民學校貿易學校諸藝術學校病院育幼院等ノ体裁及現ニ行ハル、景況トシテ親見シ之ヲ我國ニ採用シテ施設ス、キ方法ヲ目的トス、シ

全權ノ使節及全權理事ノ官負ハ各主任ノ外我國ノ有益トナル、キ事ハ凡ソ之ヲ研究熟覽ス、キハ勿論ナシハ海陸軍ノ法律及給料、多寡之ヲ指揮スル方法ヲ研究シ各國有名ノ港灣ニ至リ海關ノ實況軍器庫海軍局造船所兵卒屯所城堡海陸軍學校製鐵所等ヲ親見シ且教習ノ所由ハ果ニ緊要ノ監察ナリト注意ス、シ而シテ附屬ノ書記官ハ其研究スル所ト親見スル所トヲ精細ニ記録シ之ヲ採用シテ施設スルニ易カラシムルヲ要トス、シ

右全權使節ヲ各國ニ差遣スル大略ナリ其委任ノ章程及ニ各國ハノ公書全權理事官ノ職務章程各官負等級職權ノ際限等ハ其一行ニ係ル官負能ク其便宜ヲ量リ之ヲ考定シテ決裁ヲ乞、可ナル、シ

其使節一行ノ人負ハ別紙ニ附ス

欽差全權使節一行人員

欽差全權使節

一員

全 二等使節

一員

一等書記官

一員

二等書記官

二員

二等書記官ハ會計ヲ專任スハシ

一等通辯官

一員

二等通辯官

一員

○

全權理事官

六員

一等書記官

三員

二等書記官

三員

此書記官中通辯ヲ能スルモノ三人ヲ要スヘシ

通辯官

三頁

此外洋學生徒ノ通辯スル者アラハ四五人ヲ附從
セシムルモ亦可ナリ

此レ人員ノ大略ナリ而シテ使節ニ附從スル一等書記
官ハ全權理事官ト同等ナルヘシ二等書記官ハ理事官
一等書記官ヨリ上席タルヘシ

使節附從ノ通辯官ハ一等ハ二等書記官ト全等二等ハ
理事官一等書記官ト全等ナルヲ要ス

第二號

我政府ニ於テ定約ノ年限ニ由リ來申年五月中即西曆
千八百七十二年五月一日ヨリ條約及規則ヲ改正ス
ルノ議ニ及ハシタルニ由リ爰ニ其改正スルノ目的
ト期望スル旨趣ヲ明白ニシ且精細ナル陳述ヲサシ
其事實悉ニ修飾ナク備ニ之ヲ各和親ノ列國ニ報告シ
允當ノ考察ニヨリ公平ノ照會ヲナシ各政府ノ信從ヲ
得テ其事業ヲ目的ト期望スル所ニ違ハス能ク成功
ヲ奏スル事アルニ至ラシムルハ我政府及ヒ人民ニ關
係スル所最ニ重大ニシ且緊要ナル事トス
各政府ニ於テ其目的ト期望スル所ヲ信シ且ツ之ヲ
公平ノ條理トシテ其事業ヲ贊成スル有ルニ至テハ和
親ノ利益厚ク貿易ノ利強ク我政府及ヒ人民ノ獨リ

幸り身ハノミナリ又各國相立ニ往來交通スル人民
亦其益ヲ得ル基礎トモナル可キ所以ナルハ各政府ニ
既チ交々我政府ク説ク信聽シ更ニ遠慮ヲ其間ニ容ル
常リキハ今ヨリカレリ豫期セリ
凡事物其ノ實理ヲ推究スルニ離重此儼ノ力平均ヲ得
内レハ權衡其準ヲ得ハカクハ其準ヲ得ホレ
ハ事無偏頗シテ權衡其則ヲ失リ各國トテ交際人
リ又テク和親善睦其當ヲ得ホレハ權衡其準ヲ得
カ殊リカレニ交際和親善睦ノ準均ノ道ヲ得シテ今我
政府并均ノ道ヲ得テ交際和親ノ道ヲ得シテ永續無全
クシテ又シテハ其準ヲ得ホレハ其準ヲ得ホレハ其準
ヲ得ホレハ其準ヲ得ホレハ其準ヲ得ホレハ其準
其源由ヲ推究シ其并均ヲ得ホレハ其準ヲ得ホレハ其準

可ヲ不

今之ヲ及顧スルニ東洋諸國而滑列國各其國體政典ヲ
異ニスルハ更ニ纏述ヲ俟ス此其國民間化ノ遠近ニ關
係スルハ自ハ其及慣ノ習俗因襲シテ永ク一様ノ政俗ヲ
カシ列國公法モ之ヲ規準スル能ハス哉
帝國田林政府各國ト條約ヲ結ビシ州ノ内國ノ人心隔
港ノ事ヲ好マガルニ由リ各種ノ難事ヲ生シ列國公法
ニ從フ能ハサルヲ以テ各國ノ定約ヲ結ビ和親ノ誼實
易ノ利ヲ通スルモノ一様ノ公義ヲ遠ク普遍ノ公權ヲ
盡ス能ハサルヨリ則テ別派ノ要置ヲ設ケカレリ得
ルノ勢ニ至リ彼此一致ノ通義ヲ失ヒ交際貿易正ノ條
約終ニ平均ヲ得カレノ憂ヲ生セリ
既ニ及顧シテ平均ヲ得カレノ理ヲ推究スルハ我國體

一
一
一
一

政体ノ異ナルヨリ列國公法ヲ以テ他邦ヲ待シ普通ノ
公義ト公權トヲ以テ他民ヲ處スル能ハサルヨリ如此
ニ公平均ヲ生セシ所以ニシテ之ヲ正理ニ照シテ不當
ノ事ヲ認ムルハキハ勉強シテ平均ナラシムルノ万端
ヲ考究シ其國體政俗ヲ變革改正セザルベカラズ合我
帝國日本天皇陛下及政府政權統一以來夙ニ各國交際
貿易ノ道波此平均ニ至ルヲ期望シ其理勢變革改正マ
ル事ヲ了知シ積世因襲ノ陋規弊習ヲ洗滌シ大ニ開
國ノ規模ヲ期希スル爲メ封建ノ治体ヲ變シテ郡縣ト
シ物業也ニ民權ヲ發シテ藩屬ニ歸セシメ百事更正ス
ル所ナリ行國底ノ景況之ヲ備田ニ以テハ大ニ觀テ
救ムルニ至ルハ難ニ謀事ヲ設爲施行スル事ヲ其年月
濶待ニヨリ尚變革改正ノ順序逐件ヲスハ行モクヤリ

此條件盡ク改正スルヲ得テ始ラ我政府ノ目的ヲ達シ
期望スル處ヲ遂ルルハ云ベシ者ナリ其辦法ノ如シ

第一 我國律中民律貿易律刑法法律警察法ニ西洋各

國ノ法律ト大ニ殊ナルヲ以テ何ノ人民モ之ヲ遵
守シテ妨礙ナカラシムハ其困難ヲ度テ其難ナル
ヲ除キ全キヲ撤リ正理ニ適合シテ謬リ無クシム
ハ其專

第二 各國人民互ニ相往來居住スル其國法ヲ遵

奉スルニ於テハ國ヨリ自由ヲ得ハ其專ナリ然ル
ニ地ヲ畫シテ其區ヲ分テ彼此一致セザルニ似テ
リ故ニ往來往來ノ規則ヲ確立シ自由ヲ得セシム
ハ其方法ヲ設クル事

第三 國東西ヲ異ニシ民情亦隨テ均ニカラズ

雖其原性元ヨリ同一ニシテ異ナルヲアルナシ
故ニ教諭ノ道ヲ感ニシ開化ノ歸旨ヲ一致セシム
ル方法ノ事

第四 彼是法教ノ存スル障害ハ之ヲ除キ異論ナ
カラシムルノ實徵ヲ保全シ相互ニ抵觸ナカラシ
ムヘキ事

第一ノ條件變革改正スルニ於テ國內百般ノ事務之ニ準
シテ變正セヨルニ必クシテ而シテ或ハ設為先後ノ順序カ
ルモノアリ或ハ方法異置ノ趣向ヲ按定シテ商議ニ附
スヘキモノアリ而シテ之ヲ實際ニ施行スル多少ノ時
限ヲ釐明シバ爾ヲ得ルモノモ或ハ其法令ノ行ハサ
ルカ又ハ之ヲ拒ムルモノモ或ハ其力ヲ以テ之ヲ廢削
シ其等ヲ逐クハ片段ノアリ

此變革改正ヲ行フハ一大事件ナルニ由リ緊要ナル商
議ヲ各邦ニナシ其考案論議ヲ充ツハ必要ノ事ト考ヘ
タリ

各國政府ニ於テ我國政府ノ目的ト期望スル所トヲ贊
成スル為ニ要用ナル考案ヲ尋ヘ且其論議ヲ聽シテ以
テ此事ニ同意シ我國ヲシテ開化ノ域ニ登進セシムル
事ニ協力シ厚ク商議ヲナシ其處置ヲ十分施行シ得ヘ
カラシムル

而シテ其處置ヲ十分施行シ得ベカラシムルニハ其時
限ヲ豫算シテ我政府ニ與ハサルベカラズ此ニ我政府
大ニ後ニ期スル所アルニヨリ其事情ヲ陳述シテ條約
改正ノ期ヲ延ルノ請求ヲ敢テ各國政府ニサスモ亦不
得此ノ所以ナリ

第三節

條約改定延期斷之為後斷可被差立起原、條理併「御
 下問」書中固ヨリ異議無之界、久負御深譽發程ノ準
 備被仰出渡存限但三專定限立候儀、將來ノ累況ニ由
 リ万一共現ニ有之候ハ、指艾候ニ付茲後第一行歸國
 我政有熟議ヲ遂シ候止テ期限更ニ可申入方可然歟且
 學茲兵學宗教等ニ至ルマテ用時所究ノ趣相見候ハ、左
 方ハ條約改定ノ急務ニ無之其中法律理職交際ノ三制
 定ヲ急務ニ有之候間使前一行中ニテ研究可致儀、左
 候外ニ償金一條ハ猶取調更ニ相同可申候此致申止候
 以此

明治九年十月五日

山口外務少輔
寺島外務大輔

岩倉外務卿

正院

御中

進方林及豊城兵部宗敬ノ儀云々ノ次第ハ全ク職掌
ニ方申入難ハ其此儀ハ別段見込可申止惟尚及後節
又叙術分ニ違ニ御座極願之度存儀也

第四聯

農ニ望威ヲ張リ万国ハ増五ノ 聖旨有テ維新以來
交略面目ヲ改ムル如シハ 難ニ國權ヲ進歩変異スル
無キカ昔明甲ノ算定漸致五ノ機ハ國權ノ振不振
聖旨ノ違ト不違トニ際ニ實ニ并歳ノ一次機ト云クハ
今御下問ノ論理ヲ拂議スルニ先ツ形勢ヲ審ニ建國
ノ大經ニ涉リ時機ニ投シテ進取ノ機急有為ノ規模
備不ト云フハシ潤然スル所カシ

大文

第五號

我國東洋環海ノ地ニシテ富強ノ基礎ヲ立テ海外諸國
 ト比肩並馳セント欲セハ秘艦ノ設ケナカルベクニ
 水軍ノ備ナカルベカラザルハ固ヨリ言フ俟ガルナリ
 而シテ之ヲ設ケ之ヲ備ル其方法ヲ精究シ其施為ヲ審
 考セント欲ス其規範法律ニ於テハ之ヲ其書ニ徴シ之
 ヲ其人ニ贖シテ其要領大旨ヲ得ヘシト雖モ其實際實
 務ニ至テハ親見熟察スルニ非サレハ何リ能ク其精細
 微密ヲ尽スヲ得ンヤ依テ龍驤日新ノ二艦ヲ發シ特ニ
 技術秀拔ナルモノ及ヒ才俊ノ少年成器ニ堪ユヘキモ
 ノヲ撰ビ彙組セシメ而シテ運用測量器械等ノ諸科ニ
 至テハ或ハ歐人ノ其技ニ工ミナルモノヲ雇使シ以テ
 各國有名ノ諸港津ニ至リ左ノ件々ヲ親見熟察シテ其

大
 正
 十
 一
 年

方法ヲ考究スルヲ要ス

港津海關砲台ノ制置

海軍學校

造船場

製鐵所

海軍局

水兵斥吁

海軍編次之法

軍費支給之法

軍器庫

燈明台浮木瀬印之法

海軍會計之規則

航海諸律

郵船之法

凡ソ此等ノ件々各國異同アルヘシト雖トモ參互研究
シテ採用スヘキ考按ヲ立テ然レテ其技術ニ至ラハオ
俊少年ヲ留メテ然ルベキ國ノ學校ニ入レ習學セシム
ベシ

此親見熟察ヲ了ラバ各國海軍及ヒ其規模ヲ實地實務
ニ徴シテ我國海軍ノ規模ヲ建スル基礎タルノミナ
ラズ其航海ノ人負大ニ見聞ヲ廣メ更ニ知識ヲ増進ス
ルニ勿論ニテ技術モ亦進歩スルサシトセズ

兵部省

今般水軍設備實地考覈ノ為メ龍驤日新二艦各國津港
へ被差向候條乘組人負ヲ始諸事取調、可伺出奉

第六號

佛公使へ御内見ノ節勅語

我國政体一新シ外交ノ誼モ亦日ヲ逐テ親密ナリ依テ
各國政府へ聘問ノ禮ヲ修メ交際ノ情誼益敦カラシメ
ン為メ特ニ重臣ヲ各國へ派出シ其禮ヲ修メレメント
ス然ルニ各國ト取結タル條約改定ノ期既ニ近キニア
リ我内地ノ改正大ニ之ニ關係スルヲ以テ併テ其事ヲ
商議セシメントス幸ニ汝ニ托シテ朕カ意ヲ大統領ニ
傳へ使臣等述ル所ノ意ヲ達セシメヨ

十月四日参朝

大隈參議殿

岩倉外務卿

昨四日米國公使、別紙ノ通相達置候間為御心得寫差
進候委曲方ニテ御承知有之度候也

辛未十月五日

以手紙致答上候然ハ過日御面悟ノ節御内話ニ及ヒ置
候通我

天皇陛下ニ於テ貴國ヲ始メ歐洲結盟各國ニ聘問之使
節被差遣一新以來我政府懇親ノ真情道説及ヒ現今將
來交際ノ着眼無伏蔵談判為及度折柄閣下御歸國ノ免
許費政府ヨリ有之候我傳聞致シ候彌左様ニ候ハ我使

大正
政
官

節貴國都府到着、初閣下ニテ御在都ニテ我國近來ノ
政体時勢閣下御見聞ノ實況御申立ニテ相成候ハ、我
使節談判ノ趣ノ證左トニ相成多少都合宜ナルヘク
存候既ニ英國日身曼公使ニ歸國中ニ有之佛國公使ニ
不日歸國可被致由何レニ使節差遣候節ノ便宜可相成
ト存候事ニ付貴國ニモ右同様閣下御在都ノ時ヲ得候
ハ、無此上好機會ト存候右御様子伺度如此御坐候以
上

辛未十月四日

岩倉外務卿

テロング閣下

第八號

特命全權大使

右大臣

岩倉具視

特命全權副使

參議

木戸孝允

大藏卿

大久保利通

工部大輔

伊藤博文

外務少輔

山口尚芳

一等書記官

外務大記

塩田篤信

外務少丞

田邊太一

福地源一郎

文部中教授

何、禮之

大正政官

第九號

特命全權大使

皇上ニ代テ國事ヲ辦理決断スル權ヲ有ス

特命全權副使

大使ニ副ス

一等書記官

四等
五等

使事ヲ代理スル權ヲ有ス

文書法案通辯會計ノ事務ヲ分掌又ハ兼任

ス

二等書記官

六等
七等

一等書記官ニ亞ク

職掌前ニ全シ

三等書記官

八等
九等

二等書記官

外務大記

紫田昌一

兵部省出仕

小松濟治

米田桂二郎

外務少記

渡邊洪基



職掌前ニ全シ

四等書記官

十一等

前ニ全シ

附屬士官

本官ノ等
級ニ任ス

○理事官

考級ハ本官ニ從
ヒ之ヲ定メス

一科ノ事務ヲ擔當辦理スルノ權ヲ有ス

書記官

考級前
ニ全シ

理事官ニ代理シ及ヒ其事ヲ參判スル權ヲ

有ス

皇使一行ノ書記官ヨリ之ヲ兼帶シ又ハ特

ニ附從スルアルヘシ

附屬士官

會計ハ皇使ノ書記頭之ヲ總括シ各理事官ハ各

地ニ分在セルヲ以テ其書記又ハ附屬ノ士官之

ヲ任スベシ

第十號

十月八日木戸參議へ渡す

各國公使へ

以手紙塔上致し候然者我

天皇陛下即位以來和親ノ各國ニ未タ聘問ノ礼ヲ修メ
 サルヲ以テ右大臣岩倉具視ヲ特命全權大使トシ參議
 木戸孝允大藏卿大久保利通工部大輔伊藤博文外務少
 輔山口尚芳ヲ特命全權副使トシ貴國及ヒ各國ニ派出
 シ聘問ノ禮ヲ修メ益々兩國親交ノ情誼ヲ厚クセント
 欲ス然レテ各國ト取結タル條約改定ノ期限近キニ在
 ルヲ以テ右使臣派出ノ便ニヨリ併テ我政府ノ目的期
 望スル旨ヲ貴國政府及各國政府ニ陳述シテ其考察ヲ
 乞ントス

抑我政府ノ目的期望スル主旨ハ各國和親ノ交際ヲ敷

爲ニシ永世保續セシメントスルニ在リ而シテ之ヲ保
續セシメントスル開化ノ各國ニ行ハル、ノ諸方法ヲ
則リ内地ノ改革ヲ盡シテ同一致ニ歸セシメサル可ラ
ス之ヲ同一致ニ歸セントスル我政府ノ腹心ヲ披陳シ
貴國政府及各國政府ノ考案ヲ諮詢シ其方法ヲ實地ニ
試験修學セシメ適宜允當ナルヲ採ラ之ヲ我國ニ舉行
スル基礎ヲ圖ラントス故ニ我大使歸國ノ後其實踐目
撃スル所ト貴國政府及各國政府ノ考案スル處トヲ審
考レ然ル後條約改定ノ議ニ及ハントスサレハ其間費
ス處ノ年限ヲ延ルハ己ヲ得サルノ請求ニテ又之ヲ貴
國政府及各國政府ニ要セサルヲ得ス之レ令般大使ヲ
派出スル大旨ナリ閣下能ク此意ヲ允諾シ貴國政府へ
通報シ懇切ノ周旋ヲ望ミ候尤大使一行人負回歴ノ順

次矣開帆日限等ハ追テ可申進候

第十一號

大日本天皇敬テ威望隆盛友誼親密ナル
其國天皇陛下ニ白ス朕天祐ヲ保有シ万世一系ナル皇
祚ヲ踐ミシ以來和親ノ各國ニ未タ聘問ノ禮ヲ修メサ
ルヲ以テ爰ニ朕カ信任貴重ノ大臣右大臣正二位岩倉
具視ヲ特命全權大使トシ參議從三位木戸孝允大藏卿
從三位大久保利通工部大輔從四位伊藤博文外務少輔
從四位山口尚芳ヲ特命全權副使トシ之ニ全權ヲ委任
シ貴國及ヒ各國ニ派出シ聘問ノ禮ヲ修メ益親好ノ情
誼ヲ厚クセント欲ス然シテ各國ト取結タル條約改定
ノ期限未申年五月即西曆千八百七十二年第七月ニ在
ルヲ以テ右使臣派出ノ便ニ由リ併テ朕カ目的期望ス
ル旨ヲ貴國及ヒ各國ニ陳述セシム

抑朕カ目的期望スル主旨ハ各國和親交際ノ情誼ヲ敦篤ニシ之ヲ永世保續セシメントスルニアリ而レテ彼我政俗相異リ人民性情一ナラサレハ何ソ能ク其目的期望ヲ達スルヲ得ンヤ苟モ之ヲ達セント欲ス文明ノ各國ニ行ル諸法則ヲ則リ同一致ナラレメサル可ラス之ヲ同一致ナラシメント欲ス内地ノ諸制度列國公法ト相矛盾スルモノハ之ヲ改正セサル可ラス然レトモ久慣ノ習俗因襲ノ舊制一時ニ釐正周到ナル能ハス諸制度未タ尽ク改正ニ至ラス隨テ各國交際ノ事業未タ盛大ニ至ラス之ヲシテ尽ク改正レ列國公法ニ照スト雖氏缺ルコト無ク各國交際貿易上ニ其實効ヲ示スニ至ラシメントスル其方法宜シク實際ニ行ル文明各國ノ成法定規ヲ標準トシ之ニ則ル可レ故ニ朕カ腹心ヲ

披ラ之ヲ貴國及ヒ各國ニ諮詢シ其考案ヲ乞ハシム而シテ其考案ヲ實地ニ試驗修學ニ適宜允當ナルヲ採テ之ヲ我國ニ舉行スル基礎ヲ圖ラシメ朕カ使臣歸國ノ後親ク其實踐自擊スル旨ヲ聽キ貴國及ヒ各國ニ在リテ其考案スル所ヲ参酌シ然ル後條約改定ノ議ニ及ヒ前ニ述ル所ノ目的期望ヲ達セントス故ニ其間費ス所ノ年限ヲ朕カ國ニ與ヘン事ヲ貴國ニ望ム右ハ疾ニ商議スヘキノ處國內多事遷延今ニ至ル亦已ヲ得サル虞ナリ此レ今般使臣ヲ派出スル旨趣ニテ此使臣等ハ朕カ貴重信任スル所ナレハ陛下能ク其言ヲ信聽レ之ヲ寵待榮遇セラレシテ且切ニ陛下ノ康福貴國ノ安寧ヲ祈ル

第三號

右大臣ノ譯ハ「ミニストル」ニテ可然乎或ハ「ワ
イスプライム」ニテ「ミニストル」相譯可申哉

參議ハ「メンフルス」オ「フ」コ「ン」シ「イル」ニテ可然哉

特命全權大使ハ「アンハセトル」ニテ「キツストロージナレ
ニテ」相當リ可申

全副使ハ「ワイスタンバセトル」ノ字義ニ當リ候處歐洲

各國ノ條例ニ因リ候時ハ副使ノ例無之尤ニ等使節イ

ヌホーイセキストロージナレ「ミニストル」フ「レ」ニ「ホ

タン」レ「ヤ」レ「ノ」之例ハ有之候處兩條ノ譯字何レヲ採用

候テ可然哉後例トモ相成候事ニ付何レトモ御指揮ヲ

仰キ申度此段至急御評決被下度今午後二字前米國公

使ハ書翰差送可申ニ付即刻御指圖可被下候以上

本
文
官

右大臣岩倉其外

参議

御中

第十三號

右大臣ノ譯ハ「ワイスプレジテンオフミストルト相
譯シ可然歟

特命全權大使矣参議ハ御申越ニテ可然

副使ハ「ワイスアンバセドル」ニテ可然歟

右御答ニ及ヒ候也

辛未十月十日

参議

右大臣殿其外

第十四号

御約書

九

正

書

御約書

書記官等級左ノ通可心得事

特命全權大使

一等書記官 官等四等

二等書記官 全 五等

三等書記官 全 六等

四等書記官 全 七等

五等書記官 全 八等

理事官及随行官負ハ本官ノ等級タルヘキ事

辛未十月九日

太政官

大正
政
官

十月廿二日

陸軍少將 山田 顯義

侍從長 東久世 通禧

司法大輔 佐々木 高行

戸籍頭 田中 光顯

文部大丞 田中 不二麿

理事官トシテ歐米各國へ被差遣候事

文部大助教 池田 政懋

外務大録 安藤 忠經

今般特命全權大使歐米各國へ被差遣候ニ付四等書記

官トシテ隨行被 仰付候事

式部助 五辻 安仲

大
政
官

外務大記 野村 靖

神奈川縣大參事 内海 忠勝

今般特命全權大使歐米各國、差遣サレ候、付隨行被仰付候事

官内大丞 村田 經滿

今般東久世侍從長歐米各國、被差遣候、付隨行被仰付候事

戶籍頭 田中 光顯

特命全權大使會計兼務被仰付候事

租稅權助 若山 儀一

檢査大属 杉山 一成

租稅權大属 富田 命保

阿部 潜

今般田中戶籍頭為理事官歐米各國、被差遣候、付隨行被仰付候事

文部中助教 長與 秉繼

正七位 中島 永元

今般田中文部大丞理事官トシテ歐米各國、被差遣候、付隨行被仰付候事

文部中助教 近藤 昌綱

全 今村 和郎

内村 良藏

右全文 但被仰付ノ字ヲ申付ニ作ル

造船頭 肥田 為良

理事官トシテ歐米各國、被差遣候事

鐵道中属 瓜生 震

令般肥田造船頭理事官トシテ歐米各國へ被差遣候
并隨行申付候事

兵部大教授 原田 一道

令般山田陸軍少將理事官トシテ歐米各國へ被差遣候

三月隨行被 仰付候事

林 董三郎

令般將命全權大使歐米各國へ被差遣候二月二等書記

常トシテ隨行被 仰付候事

川路 寬堂

令般將命全權大使歐米各國へ被差遣候二月三等書記

常トシテ隨行被 仰付候事

司法少判事 平賀 義廣

司法少判事 岡内 重俊

司法少判事 中野 健明

長野 文炳

令般佐々木司法大輔為理事官歐米各國へ被差遣候二月

并隨行被 仰付候事

正四位 清水谷 公考

魯國留學校 仰付候事

大藏省書寫 沖 守固

令般田中戸籍頭為理事官歐米各國へ被差遣候二月隨

行被 仰付候事

少議官 高崎 豊磨

少議生 安川 繁成

高等少議官隨行

從四位

坊城 俊章

魯國留學被 仰付候事

從五位

松寄 延九

外國勤學被 仰付候事

万里小路 秀九

岩下 長十郎

佛國留學申付候事

中江 篤助

河内 宗一

律學修業上ノ佛國、差遣候事

平田 範静

魯國留學申付候事

燈臺権大属

藤倉 見達

工學質問トシテ英國、差遣候事

正五位

武者小路 實世

獨乙國留學被 仰付候事

從五位

前田 利嗣

英國留學被 仰付候事

日下 義雄

米國留學申付候事

從五位

香川 廣安

從三位

高辻 修長

從五位

鳥居 忠文

右自費洋行ノ分

大使一行及理事官随行者會計出納取振別紙之
通被定候條一同、為心得相違置可申候也

享未十月

正

院

特命全權大使

御中

追テ海外出張ニ付テノ御達類ハ自今大使ヨリ
理事官及随行人負ヘテ御達可有之事

一使節官負ノ外各省出張ノ官負丈度料日當御手當等
定則ノ通可給與事

一使節吳各省出張ノ官負旅費ノ儀ハ其現地ニ臨ニ出
納掛官負ヨリ可文給事

但御用都合ニヨリ他方ノ相分レ候款又ハ滞在等
ノ向ハ旅費ニ係リ候入費允積ヲ以テ受取追テ勘
定書ヲ添遣拂可申立事

一使節吳各省出張ノ官負共公事ニ属候入用ハ其趣旨
ヲ一々申談レ出納掛ヨリ受取遣拂ノ上ハ証書等相
添全掛、可申聞事

一全上私事ニ属レ候入費ハ一切自費ハ勿論ニ候、此
不得止情故有之事實差支候向ハ其趣ヲ委曲申請レ

一時繰替拜借ノ儀ニ可有之右出納掛ヨリ其時々証書ヲ大蔵省へ相廻レ留守中被下候月給ヲ以テ差引

返納ノ事

一全上縦ニ公事ニ属シ候費用タリ凡其時々不申立時日相立且証書等無之向ハ官費ニ不相立事

但不得止事情有之致遅延候分ハ其旨出納掛へ申入精細點檢出来候ハ、格別ノ事

一全上私事ニ係リ候費用ヲ公費ノ如ク申成シ受取候向ハ其者ハ申ニ及ハス出納掛官負ニ越度タルハキ

事
一公私混淆致シ候勘定向ハ委曲出納掛へ申入検査ヲ受ケ官私ノ分別明ニスレ若不適當ノ渡方等有之時ハ出納掛官負ノ責タルヘキ事

第十号

十月廿四日外史ヨリ達

今般歐米各國へ被差遣候ニ付使負一行支度料別段手當月手當左之通被下候條一同へ可相違事

正院

特命全權大使

特命全權大使

支度料 九百兩 一時限

別段手當 六百兩 同斷

月手當 五百兩

但從前ノ日當ハ不被下船賃賄代其外ハ都テ旅費定則通ノ事

全副使

文度料 五百四拾兩 一時限

別段手當 五百兩 同斷

月手當 四百兩

但前全斷

一等書記官

文度料 三百五拾五兩 一時限

別段手當 百五拾兩 同斷

月手當 二百五拾兩

但前全斷

二等書記官

文度料 二百五拾兩 一時限

別段手當 百兩 同斷

月手當 二百兩

但前全斷

三等書記官

文度料 二百五拾兩 一時限

別段手當 百兩 同斷

月手當 百七拾兩

但前全斷

四等書記官

文度料 百八拾兩 一時限

別段手當 七拾兩 同斷

月手當 百七拾兩

但前全斷

理事官及随行者ハ本官等級ニ應ニ旅費規則ニ照準
シ可被下事

第十九号

十月廿四日外史ヨリ達ス

大藏省

今般歐米各國へ被差遣候大使一行支度料別段手當月手當左之通被下候條其旨可心得事

辛未十月廿四日

太政官

別紙前公文言

第二十号

一今般歐米各國、被差遣候使節供連ノ儀大使ハ二人
 副使ハ一人充現實召連候分ハ下等ヲ以テ船賃共船
 中賄料旅籠料ハ下賜丈度料日當御手當金ハ不下賜
 其餘書記理事官等ハ從者召連候儀不相成事
 一月給並旅費ノ儀ハ三ヶ月分當地ニテ取越相渡シ其
 餘ハ彼地ニテ渡シ方致シ候積ニ付右ノ外當地ニテ
 立替金等渡シ方ノ儀ハ不相成候事
 右之通相達候事

辛未十一月

太政官

第六一號

一 租稅之事

一 出納之事

一 勸農之事

一 戶籍之事

一 民産調之事

一 會社之事

右者今般理事官トシテ歐米各國へ被差遣候ニ付本省
ノ事務研究習學仕度目的ニ御坐候間此段申上候以上
辛未十月廿五日 戶籍頭田中光顯

正院

御中

今般各國ニ理事官トシテ差遣サレ候ニ付テハ本省ノ
事務研究習學致スヘキ件々目的相立申出ヘキ段奉限
候

抑此度全權公使始ノ諸理事官各國へ御遣シ相成候儀
素ヨリ深キ

聖旨ノ在ル處ニシテ天地ノ公理ニ基キ万国ノ公法ニ
依リ速ニ各國ト平行對立シ諸務舉テ皆各國ノ如ク深
軍英米ヲ蔑レ陸軍善備ヲ凌キ實ニ世界中匹似スル者
ナカラント欲スルナラント謹テ奉恐察候然則理事官
ハ則省中万務ノ理事官ニ候哉又一二要件ノ理事官ニ
候哉定テ特命モ可有之ト奉存候ヘトモ茫乎無涯ニテ
ハ自カラ其任ノ限ヲ知ハテ得ス謹テ此旨ヲ伺ヒ候伏

昨今兵部道中陸軍事務、於ラ一々切ナラサル者ナレ
 就中參謀局軍務局給養局、事務最モ切要ナリトス然
 レ兵部性魯鈍カハ、年月限リアリ一科ヲ雖モ焉ソ能
 ヲ學リク得ンヤ況ンヤ此三科ヲ學クヲヤ伏テ類シハ
 臣、賜リ、至科ノ長概ヲ了知スルヲ以テ期トシ普佈
 ン聞ニ在賜タルヲ得セシタハ臣不慙勸喜ノ至ナリ由
 今後兩外補助ガ各藩五教文武政行ノ憂カク諸務並ニ
 進ニ茲ニ公憲カ固クニ十月十日指達ニ支那關稅ガラン
 事ヲ希冀 臣願者再拜謹聞

辛未十月廿八日

陸軍少將山西顯義

歐米各國ニ於テ研究習學可仕件々左ニ恭申上儀
 一 蒸氣諸機械製作之事
 一 諸製造所會計簿冊仕組方之事

若餘暇有之者

- 一 水中尾氣之事
- 一 家屋造營之事
- 一 造船之事

右之通御坐候以上

辛未十月廿七日

造船頭兼製作頭肥田為良

正院

御中

奏

- 一帝國帝權之差等
- 一親兵之軀裁及年費
- 一帝王公務之外年費定額
- 一海陸軍巡視之体裁
- 一帝王貴族交際接見之式
- 一公使謁見之式
- 一內廷殊恩謁見之式
- 一帝王他國巡行函簿
- 一內國遊行之函簿
- 一太子諸王取扱之等差並入學之式
- 一皇后体裁並後官妃婢之負數
- 一帝王學課日用政務之措置

一師博之接遇侍醫侍臣之撰舉

一帝居及後宮之模樣

一帝王服飾並常服之品

一大禮遊宴音樂等之式

一內廷帝程吏負其課目給料

方之件々取調可申相伺候也

辛未十月

宮内省

一帝國帝權之差等

一親兵ノ体裁

一海陸軍巡親之体裁

一帝王貴族交際接見之式

一皇華族非役扱振之事

一在官非役全一謁見等之節之式

一公使謁見之式 内外

一內廷殊恩謁見之式

一帝王他國巡行之鹵簿

一國內遊行之鹵簿

一太子諸王取扱之差等並入學之式

一師傅之接遇侍醫侍臣之撰舉

- 一 帝后及後官之模樣
- 一 帝王服飾並常服之品
- 一 大禮遊宴音樂等之式
- 一 年中之禮式
- 一 有功ノ人免官後扱振之事
- 一 大臣以下官等ニ應シ禮節之事
- 一 路頭禮節之事
- 一 祖先祭典等之式
- 一 喪並服忌之事
- 一 右之條ニ取調可申相同候也

昇永十月

式部寮

世界奎運ノ旺ナル文化ノ洽キ列國規制各異同アルハ
 シト雖モ教育ノ法ヲ設ケ人心固有ノ良能ヲ發達シ知
 識ヲ増益スルニアルノモ苟モ闔州ノ民ヲ驅テ訓誨率
 令駿々歩ヲ進ノ開明ノ域ニ躋ラシメント欲スルモノ
 其規則ノ善美ヲ攻襲シ精益求精ヲ求メ之カ宜ヲ得カ
 ヲケンヤ是ヲ以テ米利堅序滿生其餘英吉利佛朗西荷
 蘭魯西亞等最モ善美ナルモノニ就キ目今行ハルノ景
 況如何ヲ顧ミ彼我良否相距ルノ遠キ教育ノ素アルヲ
 察シ遍ク利弊ヲ洞悉シ他日實驗ニ從事セシム要ス令
 其講究スヘキ目的ヲ掲ケ之ヲ左ニ開列ス

教育事務局諸規律ノ事

教育事務局官負職務ノ事

教育事務局官賃給料ノ事

大學校ノ事

中學校ノ事

小學校ノ事

公學校ノ事

私學校ノ事

女學校ノ事

共立學校ノ事

學校科目ノ事

學校造建ノ事

學校所用器具ノ事

學校費用支取ノ事

學校監督ノ事

學校教官職務ノ事

學校教官給料ノ事

學校教官證憑ノ事

學校生徒年限ノ事

學校生徒等級ノ事

學校生徒試藝ノ事

學校生徒習業序次ノ事

學校生徒授業料ノ事

博物院ノ事

圖書館ノ事

病院法則ノ事

貧院法則ノ事

啞院法則ノ事

育院法則ノ事

癩院法則ノ事

痴兒院法則ノ事

其餘本省閑渉ノ件々

典務ノ事項ハ目撃スル所ニ從ヒ瞭知ノ夕ノ勅ノヲ簿

冊ニ詳記シ後ノ考察ニ便スヘキ事

書籍器具須要ノモノヲ購得シ翻刻模造ノ用ニ供スヘ

キ事

田中文部大丞

一萬國公法之中ニテ訟獄ニ拘ハル件々疑惑ノ筋ヲ現

行取扱ノ手續等見聞

一各國法律ノ概略夫風土人情ニ依テ各法ノ全シカラ

サル所等實況見聞

一州法邑法民法等右全斷

一司法上局ヨリ下局マテノ権限分界等實問

一司法官負ノ職制撰擧ノ方法等實問

一司法ニ屬スル地方官警ハ「マ」シヤル「役」セリフ「役」ハ

リ「大」板「子」工「レ」役等ノ職務制限見聞

一平民軍人訴訟干係ノ區分

一聽訟ノ現行實檢査聽訟ノ規則細々ノ要成ル丈ケ實

問

物獄之現行實檢大鞠獄ノ規則方法等質問
 因獄偵場懲役場等結拵規則見聞
 行刑之手續見聞
 代官師代書師公事師十唱ル者ノ職務境界
 捕込取押送安保護ノ方法等見聞
 或法行法部ニ干渉スル権限内不明ノ處々問合
 一 律學校ノ結拵規則等
 此外外國訟獄内國訟獄裁判内濟願下々身代限リ死
 派展贖罪考辨々令般一時ニ手ニ及ニ可申據ニ無之
 之爾者關取惟分ハ別取調ノ目途相立畢竟ノ處柳
 涉全備世々ニ據據此節實地ヲ見切リ相運ハセ候據
 仕度奉存候條
 法々本司法大輔

當縣大參事内海忠勝儀令般特命全權大使隨行政奉奉
 國ハ被差遣候ニ附テハ開港場ノ事務所宛習學致々キ
 件々目的相立可伺出百御沙汰ノ趣承知仕候右可取調
 大体ノ處ハ港規則地所敷渡是地奉渡方ノ方法知リ不
 規則未濟國人入籍ノ方法内外人民訴訟裁判ノ定例及
 其手數料取立方規則考リ大体ノ目的ニ相立為取調申
 度奉存候此段御受旁申上候以上
 享未十一月二日
 神奈川縣知事陸奥宗光

正院
 御中

第九節

大日本國天皇□□敬之威望隆盛文誼親密ナル□□皇
帝陛下ニ白ス

予天祐ヲ保有シ萬世一系ナル皇祚ヲ踐ミシ以未未夕
和親ノ各國ニ聘問ノ禮ヲ修メカルヲ以テ茲ニ予カ信
任貴重ノ大臣方大臣正二位岩倉具視ヲ特命全權大使
トシ參議從三位木戸孝允大藏卿從三位大久保利通正
部大輔從四位伊藤博文外務少輔從四位山口尚芳ヲ特
命全權副使トシ共ニ全權ヲ委任シ貴國及ヒ各國ニ派
出シ聘問ノ礼ヲ修メ益親好ノ情誼ヲ厚クセント欲ス
且貴國ト結ヒタル條約ヲ改正スルノ期近ク來歲ニ在
ルヲ以テ予カ期望預圖スル所ハ開明各國ニ此レカ人
氏ヲシテ莫公權ト公利トヲ保有セシメン為メニ從來

ノ定約ヲ釐正セント欲スト雖モ我國ノ開化未タ決カ
ラズ政律モ亦從テ異ナレバ多少ノ時月ヲ費ニ非サレ
ハ其期望スル所ヲ達スル能ハズ故ニ勉メテ開明右國
ニ行ハル、諸方法ヲ撰ヒ之ヲ我國ニ施スニ適宜妥當
ナルヲ采リ漸次ニ政俗ヲ革メ全一致ナラシメンコトヲ
欲ス於此我國ノ事情ヲ貴國政府ニ詢リ其考案ヲ得テ
以テ現今將來施設スベキ方略ヲ商量セシメ使臣歸朝
ノ上條約改正ノ議ニ及ヒテ予カ期望預圖スル所ヲ達セ
ント欲ス此使臣ハ予カ貴重信任スル所ナレハ陛下能
ク其言ヲ信聽シ之ヲ寵待榮遇セラシムン事ヲ望ミ且切
ニ陛下ノ康福貴國ノ安寧ヲ禱ル

明治四年辛未十一月 日東京宮城ニ於テ親カラ名
ヲ記シ璽ヲ鈐ス

第六三號

勅旨

一使命ノ大旨國書ヲ體シ列國條約及稅則ヲ審考シ國
ノ權利ト利益トヲ失ハザル事ニ注意シ談判ノ條理
與事ノ例規筆ニ公法ニ照準シ内勅及ヒ條約改正ニ
ヨリ目的ノ件々實際履行スヘキ順序ノ別勅旨ヲ奉
シ便宜從事スヘシ

一馬關償金ノ事ハ便宜談判ヲ遂クヘシ若シ外國人民
利益トナルヘキ事ト交換ノ談判ニ涉ル事アリト雖
モ無稅又ハ減稅等ノ談判ハ受クベカラス

但自後開港ノ談判ニ及フ時ハ越前敦賀志摩高羽
三陸中ニテ一個西北海道ニテ一個所ノ内一港ヲ
開、談判約束ヲナシ得ベシ

一新鴻港ヲ関テ別ニ一港ヲ開ク譚判ニ及リ時ハ
前ニ載ル港ノ内ヲ以テ之ニ換ルノ談判約束ヲナ
スベシ

一各國ニ於テ要用ノ人物ヲ撰テ之ヲ備ヒ及ヒ器具ヲ
購スルノ事ヲ專決シ理事官ヨリ此事ヲ申請スル時ハ
之ヲ可否判断スヘシ

一條約アル國々ノ内未タ辨務使ヲ派出セサル國ニ辨
務使ヲ置クノ事ヲ約束スルヲ得ベシ而シテ一國ニ一
員ヲ置キ或ハ兩國ヲ兼任セシムルハ便宜考定シテ
其狀ヲ具シ報告スベシ

一各理事官ヲ各國ニ分遣シ擔當ノ科目ヲ研究習學セ
シムルハ實地談判ノ便宜ニ從テ之ヲ定メ及ヒ其行
事ノ順序期限等之ヲ指揮スベシ

一隨行ノ官負其材ヲ量テ之ニ科目ヲ分チ各國ニ留メ
テ研究習學セシメ及ヒ各國ニ官費ヲ以テ留學スル
生徒ノ分科修業ヲ檢査察定シ失行無狀ノモノハ歸
國ヲ申渡スベシ

但シ留學生徒ノ費用ヲ裁省シ其方ヲ檢定スベシ
一諸官負ノ行狀ニ注意シ訴訟アル時ハ之ヲ裁斷シ非
違ヲ犯ストアルカ或ハ奉職無狀ナルイアラハ其狀
ヲ具シ歸國ヲ申渡スベシ

一各國往復ノ公書談判ノ顛末其時々要旨ヲ書録シ速
ニ之ヲ報告スベシ
一凡ソ談判ノ旨趣副使一同豫議シ獨自ノ專斷アルベ
カラズ

事務官等々宜ク遵奉シテ怠ルノ事可シ

奉勅

太政大臣三條□□

實行ノ第二案

別勅旨

條約改正ニ付目的トシタル件々ヲ實際ニ履行
ス可キ順序

一三府五港ニハ各國ノ人民、未任ヲ許シタルニ付以來
外國人居留地ノ區別ヲ廢シ彼我人民自由ニ雜居ス
ル事ヲ許スヘシ

一方、外國人等ハ都テ日本政府ノ法律ノ下ニ立テ其
地方官廳ノ規則ヲ遵奉スベシ故ニ其地・居住セン
ト欲スル者ハ三府五港ノ官廳ニ未リテ何區何街ニ
住シ何産業ヲ營ナマント欲スル事共ニ生國姓名等ヲ
願書ニ認メテ申立ツベシ是ハ記録局ノ所務タル_{港府}
ノ官廳ニ各々記録局ヲ取設ケ外國人ヲ使用スベ

一三府五港ノ外ハ外國人ヲ居住セシメスト雖モ其全
國中ヲ自由ニ旅行スルハ其通樺中ニアルベシ故ニ旅
行ヲ類フ者ハ^港府ノ官廳ニ来リテ旅行免狀即チ往來
切手ヲ乞フベシ此往來切手ニハ其地ノ知事之ニ名
記スベシ

一日本政府ノ職務ニ使用セラル、外國人ハ即チ日本
政府ノ官負ナレハ右ノ制限ニ拘ラサルヘシ且嶺山
耕作等ノ産業ニ付府港外ニ居住スルハ其官廳ノ
特許ヲ得サルベカラス

一日本地内ニ居住スル外國人ハ日本政府ノ法律制度
ニ服従スルヲ以テ内外人民ノ別ヲ論セズ其訴訟ヲ
裁判シ其罪狀ヲ審察スヘキ裁判所ヲ設クヘシ此裁

判ノ長官ハ日本人タルヘシト雖トモ其法律ヲ案議
考定スルノ法官ハ各國ノ法律ニ通曉ナル外國人ヲ
使用シ日本官負トトモニ諸官ノ列ニ加ハラシムベ
シ

一東京ニハ大裁判所ヲ設ク各地ニテ審度シ難キ所ノ
訴訟獄案ヲ持出シテ之ヲ裁判セシムヘシ此大裁判
所ノ法官モ前同様外國人ヲ使用シテ其列ニ加ハラ
シムベシ

一右ノ裁判所ヲ建ルノ以上ハ外國公使岡士等ハ一切
日本ノ民法刑法ヲ論議スルヲ得ヌ又其國民タリ
凡日本地内ニ居住スル者ノ訴訟獄案ヲ決スルヲ
得サルベシ

一右ノ裁判所ニ於テ遵奉スル所ノ民法刑法ハ預シメ

議法官ヲ設ケテ之ヲ議定セシムベシ此議法官ハ外
國人ト日本人トノ中ヨリ撰ビ以テ假令ハ其國ノ法
ヲ標準トシテ之ヲ斟酌シテ決定セシムベシ目今ノ
制度憲法ヲ擴充スルノ理ナリ而シテ其議法官負ヨリ
進呈シタル法律案ハ三院ニテ議定シテ初メテ法ト
ナシ之ヲ公布シテ裁判所ノ法律トナサシムベシ
右別 勅旨ノ件々宜ク遵奉シテ愆ルイカレベシ

奉勅

太政大臣三條實美

大使職任ノ心得

特命全權大使ハ我

皇上ニ代リテ外國ニ派出シ國事ヲ辦理シ且之ヲ決判
スル權ヲ有スルハ普通ノ公例タルニ由リ外國ニ於テ
モ之ヲ其君主親臨スト同様ニ認メ各政府貴重ノ待遇
ヲ受リ吾人民ニモ尊敬ノ款接ヲ得ルナリ此レ其人ニ
存スルニアラズ其職任ニ存スル事ニテ全國ノ事皆ナ
此ノ一ノ職任ニ萃ル故ニ自國ノ正理ヲ達シ自國ノ利
益ヲ享ケ自國ノ名譽ヲ廣ムル事モ自國ノ枉曲ニ陷リ
自國ノ禍害ヲ招キ自國ノ恥辱ヲ受ル事モ盡ク其引受
トナルハカ論ナリ是ヲ以テ片言隻辭ノ差謬一動一止
ノ疎忽モ全國ノ大事ニ關係スルニ由リ多言ヲ慎ミ輕

職ヲ整ルハ極權ノ發真ニ榮辱ノ主ナルヲ慮カレハナ
カ
機密ヲ條理ノ上ニ托シ投贈ヲ監視ノ間ニ弄ス列國ノ
交際繁文密書ナル所以ニシテ精理公使ノ措事慎重用
意別途ナルヲ要スル所ナリ一舉一動モ其由来スル原
由ヲ推察シ機ヲ見ル敏捷ニシテ事ヲ察スル明晰ナラ
サレバ表裏抑揚ノ相反スルモノアリテ其敵中ニ知ス
レテ陷ルイナリ此ノ最モ注意スヘキ事ナリ故ニ列國
辦理公使ノ始メテ職任ヲ受ルヤ其職權ヲ審ニシ派出
スル國ノ情態ハ勿論其外國事務執政ノ才能志行氣質
ヲテモ考察シ談判ヲ遂ケ自國君主及ヒ自國ノ利益ヲ
取失ハサルイニ始終注意シ其方便ヲ思索スルイ肝要
トセリ

如此職任ノ重大ナルヨリ大使ノ行住坐卧トモ各國人
民ノ觸目スル所ニテ瑣末ノ事モ新聞ニ傳播シ毀譽得
失廣論衆評セラレ、標的トナリ又其國柄ノ何如ヲ推
考スル表證トモナルイナリ

右之件々ハ大使職任ノ大略為心得相違候事

勅旨

各理事官

一 各國ノ内文明景況ナル國ニ於テ本省緊要ノ事務目
今實地ニ行ハル、景況ヲ親察シ其方法ヲ研究講習
シ内地ニ施行スヘキ目的ヲ立ツベシ

一 研究講習スル事務ノ科目ヲ分テ及ヒ其國ヲ定メ便
宜行事ノ循序期限等ハ特命全權大使ノ指揮ニ從フ
ベシ

一 随行ノ官負ニ事務ノ科目ヲ分ツハ特命全權大使ノ
指揮ニ由ルト雖モ其分任ノ事務ヲ督シ之ヲ整理ス
ルノ責ニ任スベシ

一 本省要員ノ為メ外國人ヲ雇ヒ書籍器具等ヲ購スル

事アラハ特命全權大使ノ決判ニ從フベシ

一臨機ノ事ハ凡テ特命全權大使ノ指揮ヲ受ケ處置ス

ベシ

一當務ノ顛末所究習學ノ功程等時々書録シテ報告ス

ベシ

右勅旨件々宜ク遵奉シテ愆ルマカレベシ

奉勅

太政大臣三條口口

第六四號

今般歐米各國へ被差遣候使節一行書記官御手當ノ儀
此程御改定御達相成候處二三等四五等ハ同等ノ被下
方相成居候處先未等級被定候上ハ支度料ハ格別月御
手當別段御手當等ハ等級ニ應シ差等相立相當可仕且
向來使節被差遣候節ニ右ニ準據致シ下賜可然被存候
間更ニ別紙ノ通御改更相成候様致シ度尤右ノ趣ハ當
省ヨリ直ニ外務省へモ相達別紙割合ヲ以テ渡方取計
候積ニ御坐候此段申上置候也

大藏少輔吉田清成

大藏大輔井上 馨

大藏卿大久保利通

辛未十一月三日

正院御中

一等書記官

文度料

三百七拾五兩

一時限

別段御手當

百五拾兩

同断

月御手當

二百五拾兩

但從前ノ日當ハ不被下船賃賄代其外ハ都ラ

旅費規則通り候事

二等書記官

文度料

二百五拾兩

一時限

別段御手當

百兩

同断

月御手當

二百兩

但前全断

三等書記官

文度料

二百五拾兩

一時限

別段御手當 八拾兩

同前

月御手當 百八拾兩

但前全断

四等書記官

丈度科 百八拾兩

一時限

別段御手當 七拾兩

同前

月御手當 百五拾兩

但前全断

五等書記官

丈度科 百八拾兩

一時限

別段御手當 五拾兩

同前

月御手當 百三拾兩

但前全断

右之通書記官御手當更ニ被定候事

本文ノ趣大使並ニ大藏省ノ相違候事

第六號

十一月三日

米國公使

第六號

佛國公使歸國ノ節ト全勅語

裁

一 留學生取納方ニ付大藏省同

一 歐米各地方留學生學費引請人ノ儀ニ付全省同

一 鐵道工學勅工製鏡寮ハ外國人御傭入ノ儀工部省

申立

一 書籍器械等買入方ノ儀司法省同

一 教師御傭入ノ儀全省同

一 輸入品鑒定者御傭入ノ儀大藏省同

一 佛朗西法律書類買入代金ノ儀司法省同

右ハ實地ニ於テ便宜可致處置儀ニ候間為心得右書

類相違置儀事

留學生取締ノ儀ニ付伺

別紙歐米留學生取締ノ方法甚得其要候様存候ニ付御
採用全權大使ハ御要置御任ニ相成候方ト存候然レ尺
畢竟生徒ヲ出スノ時ニ方リ能ク其人ヲ精撰レ約スル
ニ一課ノ學ヲ以テ責ルニ其課ノ成ヲ以テ始メテ
慎ムニテラガレハ此方法ノ終ヲ實ニスル事ニ難カル
ベシ殊ニ注意致シ度儀ハ將來生徒詮撰ノ法工藝技術
ノ者ニシテ高尚文事ノ人ニ無之固ヨリ治國修身ノ經
律法理論ノ學要ハ最ニ要ニシテ不可不講ノモノト雖
トモ急ニセサルモ別ニ無害其地遊テ學バサルモ其書
ニ就テ之ヲ求メハ粗其大概ヲ涉獵シテ其細領ニ達シ
得ハシ然藝ノ事ノ學フニ於テハ實境ニ臨ミ實事ヲ執

鐵鑛鑿掘之工。其法。必。良。工。之。成。ス。ハ。カ。ラ。
不。決。ン。テ。難。キ。ヲ。極。メ。難。シ。古。來。我。國。文。學。ヲ。重。シ。レ。技。藝。
ヲ。重。シ。テ。工。職。陋。劣。百。課。不。舉。未。タ。一。奇。機。ヲ。造。リ。
水。州。不。表。ダ。一。工場。ヲ。築。キ。成。サ。ス。終。ニ。今日。ノ。貧。迫。ヲ。致。
ル。方。今。開。明。ト。稱。ス。ル。歐。米。ノ。國。學。問。淵。博。知。識。高。尚。律。法。
經。理。可。見。ニ。至。ル。モ。百。工。奇。麗。製。作。繁。昌。國。家。殷。富。ヲ。致。シ。
テ。後。之。ヲ。成。セ。シ。ニ。可。有。之。然。ハ。則。工。藝。技。術。ノ。我。國。ニ。於。
ル。ハ。要。ニ。シ。テ。又。急。ト。可。申。故。ニ。自。是。生徒。ヲ。出。ス。ハ。專。ラ。
是。ヲ。先。ニ。シ。テ。詮。探。致。度。事。ニ。候。

○若。詮。探。ノ。法。立。ツ。ト。雖。モ。約。束。ノ。法。嚴。ナ。ラ。サ。ル。時。ハ。名。
ハ。エ。ト。ナ。シ。藝。ト。為。ス。モ。其。實。コ。ト。ニ。ア。ラ。ザ。レ。ハ。境。ヲ。出。
ル。即。チ。其。說。ヲ。放。テ。恣。ニ。其。課。ヲ。轉。ス。現。在。歐。米。生徒。ノ。内。
其。傑。妙。ナ。カ。ラ。ズ。故。ニ。留。學。ヲ。命。ス。ル。時。○何。學。何。課。修。業。

ノ。為。ノ。何。地。留。學。申。付。候。條。自。是。何。年。ノ。間。實。際。研。究。實。事。
習。熟。ノ。功。ヲ。遂。ケ。何。學。何。課。ノ。用。適。シ。候。條。可。致。事。

○主。課。ノ。學。ヲ。勉。メ。ス。レ。テ。餘。ニ。他。課。ニ。轉。學。致。シ。候。者。ハ。
勤。怠。成。不。成。ニ。不。拘。歸。朝。ノ。命令。可。有。之。事。

○彼。地。生徒。監。督。役。ハ。連。月。考。課。狀。ノ。事實。ヲ。檢。シ。方。レ。ル。
者。ハ。故。チ。歸。ス。ノ。權。ヲ。ル。モ。ノ。ナ。リ。故。ニ。其。命。有。之。時。ハ。速。
ニ。歸。朝。可。致。事。

○彼。地。到。着。ノ。上。此。書。ハ。監。督。役。ヘ。可。預。置。事。

○右。等。ノ。條。令。ヲ。揭。ヨ。ル。書。付。ヲ。渡。シ。名。實。始。終。通。徹。致。シ。
候。條。約。束。ノ。法。嚴。肅。ニ。相。立。度。事。ニ。候。

○右。條。令。ノ。如。ク。約。束。ノ。法。相。立。候。共。是。迄。ノ。通。リ。各。縣。自。
來。ニ。出。徒。ヲ。出。シ。學。費。ノ。送。リ。方。區。々。ニ。テ。ハ。其。法。モ。亦。難。被。
行。故。ノ。公。費。ヲ。以。テ。留。學。ス。ル。者。ハ。總。ラ。費。金。ヲ。大。減。省。シ。

管轄シ是ヲ一箇ニ彼國ニ於ケル學費金引渡人ハ渡シ
置キ其金權ヲ生徒監督役ニ與ハ候様致シ度事ニ候
○右ノ議可然ト被思食候ハ、大使ハ御命レ既ニ彼地
ニ罷在候生徒ハ、七方條令ノ書ヲ為渡且學費金ノ儀ハ別
紙ノ趣ヲ以テ御布告相成候様致シ度存候依之相同候
也

但生徒人撰ノ法並約束法辭令ノ箇條等ハ御一定ノ
上其主任ハ御命レ有之度候也

辛未十一月

吉田大藏少輔
井上大藏大輔

正院
御中

御布告ノ趣意

是迄歐米兩國ノ内ハ公費ヲ以テ留學申付置候者ハ
學費金差送り方總テ大藏省於テ取扱候等ニ付其年
正月ヨリノ分ハ前年五月中七月ヨリノ分ハ十一月
中ト七ヶ月以前ニ全省ハ可差出事
一以來差出候分七方同漸ノ割合ヲ以テ總テ七ヶ月
以前ニ同省ハ可差出事
一以來生徒指出候者ハ其路費金ノミ本人ハ相達シ
學費金ハ總テ全省ハ可相渡事

海外ニ下ル留學生徒ノ為ニ修行ノ

方法ヲ設クルノ議

方今海外各國ニ留學スルノ生徒數百人ニ至ル其費ス
所ノ費額モ亦尠ナラズ將來我國ノ開明ヲ進ムルノ基
軸タルヘキヲ以テ其費額ヲ供スルナレハ留學生徒モ
亦各學フベキ所ヲ學ヒ習フベキ處ヲ習ヒ此費額ト時
月トノ費ヲ償ハサル可ラズ而シテ留學生徒修業ノ實
際ヲ探ルニ大ニ期望スル所ニ異ナルカ如シ普通ノ學
科ヲ習フマスレテ高科ニ涉ル者アリ私ニ教師ヲ求メ
テ校塾ニ寄ラガルアリ或ハ年々數回其師ヲ換ヒ塾ヲ
轉スル者アリ到底開明ノ實狀ヲ目撃スルヨリ愈々其
志ヲ大ニシ其見ヲ高クスルヲ以テ自ラ良ナリシ一業
一科ヲ專習スル一層トセス之レ留學生徒崇ノ目今

ノ學習ニシテ此弊アルモノ大抵十ニ七八ナルベシ此
弊ノ由テ来ル所ヲ按スルニ生徒ヲ監督スルノ責ニ任
スルノ人ナク又之ヲ嚴約スルノ人ナキニ出ツ生徒ノ
費額ニ至リテモ多キニ過キタルアリ少キニ過タルア
リ各地ノ景況ト生徒ノ勤怠ニ應シテ異同アルベキ一
固ヨリ當然ナルベシト思ハル
今之ヲ監督嚴約スルノ方法ヲ設ケズンハ將來生徒ノ
成罷ヲ得ルノ際大ニ損益ヲラン既ニ歐米ニアル報務
使ハ此任ヲ擔當スト雖トモ交際事務ヲ司ルヲ以テ之
ヲ專務トスルヲ得ガラシカ幸ニ今般特命全權大使各
國巡行ノ機會ヲ以テ右ノ監督嚴約ノ方法ヲ設ケン
ヲ祈望ス故ニ立案スル所左ニ陳述ス
特命全權大使某國ノ首府ニ到着ノ上其府ノ大學士ヲ

招キテ相謀リ全國中ニ於テ有名ナル學士ノ德望アル
人々ヲ撰ニ各々大使ヨリ書送シテ之ヲ招待シ集會ヲ
ナシ日本ヨリ留學ノ生徒監督ノ事ヲ擔當セン
ヲ依
賴スヘシ
諸學士等ハ皆此撰擧ニ應シ自己ノ榮譽タルヲ以テ之
ヲ承允スルニ必定ナリ
於此生徒習業ノ順序監督ノ方法ヲ相議シ此撰擧ニ應
シタル學士等ヲ日本生徒監督役ト名ク尤モ辨務使並
ニバンク留學生徒ノ學費トシテ日本ヨリ送りタル金
ヲ在シテ引受ケ之ヲ預ルベキバンクヲ云フ
ニ亦此監督役ニ加ルベシ
監督役連名ニテ各地ノ小學校私塾等ニ至ルマテ皆其
教官ニ書送シ日本生徒ハ此監督役ノ定メタル順序ヲ
目的トシテ教授レ毎月勤怠ト進業ノ功課狀ヲ其校塾

ノ教官ヨリ監督役ニ出サシムベシ
始テ其國ニ到着ノ留學生ハ辨務使ニ申出監督役ノ檢
査ヲ經其習學マント欲スル所ノ目的ニ應シテ監督役
ノ指圖ニ從ヒ其地ノ校塾ヘノ紹介狀ヲ監督役ヨリ落
手シ之ヲ持参シテ其校塾ニ投スベシ
生徒ノ學費ハ其寄宿シタル校塾教官ノ報告ニ從ヒ監
督役ヨリ毎月之ヲ交付スルイテバンクニ達スベシ
バンクハ日本ヨリ寄送ノ學費ヲ預リ其渡シ方ハ監督
役ノ指圖ニ從フベシ
監督役ハ毎月校塾ノ功課狀ヲ得テ日本生徒ノ勤怠ヲ
知り此功課狀ニ檢印ヲ加ヘテ之ヲ東京ノ大學校ニ送
ルベシ
若シ此功課狀ニヨリテ事實不勉強ノ生徒ニテ成器ス

可キニ非スト監督役ニテ議定セハ速ニ其生徒ニ歸路
ノ入費ヲ与ヘ之ヲ日本ニ歸スベシ之ハ監督役ノ議ヲ
以テ取計フニ推トスベシ
學費ノ増減或ハ増額ヲ勉強ノ生徒ニ與フル等ノ議ハ
監督役ニテ決定スベシ
右ノ方法ニ依リテ生徒ヲ約束セハ其成器ヲ得ル期
ヲ速ニスルノミナラス無益ノ費額ヲ減シ懶惰ノ生
徒ヲ逐ヒ各習學スベキヲ習學スルイテ得シ
政府ニテ此議ヲ善良ナリト許可シ賜ハ、速ニ之ヲ
實施スル事ヲ特命全權大使ニ任シ賜ハシテ祈望
ス

歐米各地へ留學生學費引受人ノ儀

ニ付伺

是迄歐米留學生へ學費差送り方不都合ノ次第モ有之
趣依テ以來ハ「サンフランシスコ」「ニューヨーク」「ロンド
ン」「パリス」「ベルリン」於テ右學費金引受人相命シ左ノ通
取扱候様致シ度依之相伺申候

一各地留學生へ可送金額ハ支々横濱表ニテ為替ニ致
シ各地ノ引受人へ可積リ依テ各地ノ引受人ヨリ
各個一年ノ定額ヲ月ニ割合万一為替受取方遲延ノ
節其定額丈ハ採積相渡候様取扱極可申事
一右引受人ハ手数料トシテ其取扱候金額ノ百分一充
別段政府ヨリ被下留學生ノ學費ヨリ不引去様取扱
可申事

一為昏到著遅延ノ節操曆金致レ候節ハ相當ノ利息是
亦別段政府ヨリ御拂可相成旨取極可申事
一方引受人ヨリ毎六月會計書大蔵省、為差出候様可
致事

辛未十一月

吉田大蔵少輔

井上大蔵大輔

大久保大蔵卿

正院

御中

工部省鐵道工學勸工製錢寮等ニテ可相用機關學家其
外歐洲ニ於テ雇入申度尤給料諸入費トモ概算勘定書
差出置候定格中ニテ相賄候心得ニ付兼テ得御許可申
置度此段相伺候事

十一月七日

伊藤工部大輔

正院

御中

今般當省官負洋行致シ候ニ付伺書

司法關係ノ事務ハ公法國法郡邑民物ノ法ヨリ訴訟刑
獄大小司法官ノ権限等ニ至ル迄件々夥敷儀ニ付今般
歐米滯留中随行ノ同僚共ハ申ニ不及其他其本國ノ人
負其本邦ヨリ其國々々へ留學致シ居候書生ノ内ハ之加
勢申談多人數手ヲ分テテ取調不申テハ間ニ合申間布
且右條々々ニ干渉スル司法急用ノ書籍圖画ノ類並刑獄
等ニ必用ノ器械類ハ見合々買入レ不申テハ叶々難ク
來存候就テハ右助勢依頼候内外ノ人負へ挨拶仕向ケ
テ書籍類取入レノ代料等其時々彼邦於テ大藏省へ可
申立ニ付全省へ御達置有之度此段相伺候也

辛未十月廿九日

司法省

正院御中

教師御雇入ノ儀ニ付伺

各國政体ニ基キ諸法律調方取掛リ候ニ付テハ先以テ
那勃列翁コ一ヲ本ニ致シ傍ラ英米等ノ諸法律ト打
合ニ斟酌可致ハ勿論ニ候下併先ツ其目的トスル所不
分明候テハ却テ其為メ紛紜ノ弊害ヲ生シ候奈幸ニ今
度當省ヨリ大輔始メ洋行被仰付候其者共ニモ皆其
心得ヲ以テ教師ノ儀ニ民法刑法訴訟法等ニ委敷人而
三人佛國ヨリ相雇入度候條此段先以テ奉伺候也

辛未十月廿五日

司法省

正院

御中

大政官

輸入品鑒定者御雇入ノ儀ニ付同

運上所輸入品鑒定者ノ巧劣ニ依リ大ニ収税ノ多寡ニ
相関候間横濱神戸兩港、一人充ノ積リヲ以テ米國運
上所ニ於テ其筋熟練ノ者相撰ニ御雇入相成候様イタ
シ度御許可相成候ハ、今般遣歐米御使昔ノ内、右人
撰方共給料等ノ定方トモ諸事可相属ト存候依之相伺
候也

吉田大藏少輔

井上大藏大輔

辛未十一月

正院

御中

十一月七日

伺之趣特命全權大使、其理事官ヨリ申立於實地
可受指揮事

佛朗西法律書類買入代金御渡ノ儀ニ

付伺書

佛朗西法律書類洋書石ノ通此節洋行ノ序買入申度
候間右代金凡見込千両御渡有之候様至急大蔵省、柳
達相成度此段相同候也

辛未十一月五日

司法省

正院

柳中

十一月七日

特命全權大使、申立可受指揮事

特命全權大使

今般各國順歷之序左之件々取計可申事

銅錢鑄造器械買入之儀

紙幣製造詔方之儀

辛未十一月

太政官

但為心得大藏省伺書相違候事

銅錢鑄造器械御買入ノ儀ニ付伺

銅錢鑄造ノ儀別紙概算比較ノ通得失了然ノ次第ニ付
決然器械御買上且其筋熟練ノ者御雇入及ニ彼地留奉
生ノ内ヨリ三五名右器械製造中ヨリ其業ニ親炙從事
為致成工ノ後是ト一同歸朝致シ建築共製造ノ事ニ擔
當為致候様致シ度此儀制可相成候ハ、右器械買入万
其他共今般遣歐米御使節ノ内ハ都テ便宜ノ權ヲ以テ
取計候様可相囑ト存候依之相同申候也

辛未十一月

吉田大藏少輔
井上大藏大輔

正院御中

伺之通特命全權大使ハ相違候事

本
文
官

銅錢鑄造ノ見込

一五百万圓ハ

壹錢

一三百五拾万圓ハ

半錢

一一百五拾万圓ハ

壹厘錢

合計

壹千萬圓

右ハ鑄造適宜ノ數ニ可有之今此鑄造ノ方法勦考候處
 現今大阪造幣寮ニ於テハ金銀兩貨ノ鑄造スラ急需ニ
 相充候儀甚ク難キ場合ニ付速ニ銅貨ヲ鑄造シテ從前
 醜惡ノ小錢ト引換國貨ノ品位ヲ齊整致シ候儀ハ所詮
 喫分ノ手段無之依テ英米兩國ノ内ニ於テ鑄造イタル
 候方可然裁ト存候ヘドモ尚克ク之ヲ熟考致シ候ハ
 鑄造器械御買入別ニ銅貨ノ工場ヲ興シ製造相成候方

更ニ可燃哉ト存候依テ其得失ヲ左ニ掲テ此段相同申
候

壹千万圓鑄造ノ時間

今一秒時ニ付一箇充ノ錢ヲ壓印スルトセバ一時間ニ三
千六百個一十時間ノ工ニシテ三万六千個ノ數ヲ得ベ
シ故ニ壓印機械十個ヲ備ル工場ナレハ一日ニ付三拾
六万个ノ數ヲ造リ一年三百六十日間工作ノ日ヲ三百
トシ其製造數一億零八百万個ナリ右ニ掲テ銅錢一箇
數ニ拾七億ノ總計ヲ此割合ニシテ造ル時ハ二拾五年
ノ業ナリトス若シ貳拾箇ノ壓印器械ヲ備ル製作場ナ
ラハ十二年半ノ業ニシテ若シ三十個ノ機械アルモ尚
八年以上ノ時ヲ經過シ今若製造ヲ我ニ為サハ人ヲ倍
シ時ヲ重ネ休暇ノ日無之是ヲ造リ時間ヲ縮ルノ得テ

ル可シ

工作ノ料

今貳拾五箇ノ壓印機械ヲ備ル製作場トセバ器械一个
ニ一人ツト外ニ銅ヲ鋸和シ銅板ヲ作り或ハ圓形ヲ作
リ或ハ之ヲ運搬シ或ハ蒸氣機關ヲ司ル人或ハ工場ヲ
脩スル人或ハ書記役小使等迄總テノ人負ヲ概算スル
ニ四五十人ヲ下ラガルベシ其給料ヲ平均シテ一人一
日金貳兩ツト概計スレハ一日ニ付テ百兩ツニ一年
三百日ノ總計ハ即チ三万兩十二年半ニシテ全成スル
ト見ル時ハ工料ノ總數三拾七万五千兩ナリ外ニ石炭
油等ノ代其他ノ小費ヲ合算シテ一年壹万五千兩ヲ費
ストシ拾八万七千五百兩又製作場及ヒ器械ノ損料ヲ
一年三万兩トスル時ハ十二年半ノ總計トシテ三拾七

万五千兩ニ及ラベシ故ニ九拾三万七千五百兩ノ合計
 トナル今若シ之ヲ自國ニ算セハ工料一日一人金貳分
 ツ、五拾人ニテ貳百五兩三百日ニ七千五百兩十二年
 半ノ合計ニテ九万三千七百五拾兩ノ數トナル又炭油
 其他ノ小費ニ於テモ凡ソ三分一ノ數ヲ減シ十貳万五
 千兩ニテ充足スベシカ論製造場ノ器械ノ損料ハ全ク
 是ヲ入算セサレハ總計貳拾壹萬五千兩也

銅ノ價

壹千萬圓三等ニ分チ壹錢ノ個數五億此重量九拾四万
 八千七百五拾貫目半錢ノ個數七億此重量六拾六万四
 千百貳拾五貫目一厘錢ハ拾五億个ナリ此重量ハ即チ
 三拾六万二千二百五拾貫目總量百九拾七万五千百二
 拾五貫目是ヲ百六拾斤ニシテ一千二百三十四万四千

五百三十一斤四ト一今百斤ノ精銅ヲ我ニテ買ハハ金
 拾六兩ノ價ナルベシ之ヲ彼ニテ買フ時ハ百斤ニ付唯
 金二分ツ、ヲ増ストスルモ六万七千七百二十二兩永四
 百二十六文ノ差アリ外ニ英國ヨリ橫濱マテノ船運賃
 一噸ニ付金四兩ト積リ七万五千九百六十六噸六 賃
 三拾万三千八百六十六兩永四百八十文危難請合料元
 價二百〇三万六千八百四十七兩永六百十五文ノ五分
 ヲ拂フトスルモ拾万〇二千八百四十二兩永三百八十
 文餘ノ高トナル故ニ其經費ノ多寡ヲ比較スルニ左ノ
 如シ但シ算ノ易カラシク頭
 シテ錫ノ事ヲ略セリ 假令ハ英國ニ於テ製造スレハ
 一金三十七万五千兩 工作料
 一金拾八万七千五百兩 炭油其他ノ雜費

炭油其他ノ雜費

一金三拾七万五千兩

製作場器械損料

一金六万七千七百九十二兩永四百二十文

銅價ノ差

一金三拾万三千八百六拾六兩永四百八十文

船運賃

一金拾万二千八百四拾二兩永三百八十文

危難諸合債

合計

金百四拾萬五千九百三拾壹兩永貳百八拾文

自國ニテ製造スレハ

工作料

一金九万三千七百五拾兩

炭油其他雜費

一金拾貳万五千兩

合計

金貳拾壹萬八千七百五拾兩

差引

金百拾九萬千八百八拾壹兩永貳百八拾文

右差引殘高百拾九万餘ノ金アラハ器械買入ノ代之ヲ
 運送スルノ費工場建築器械据付ノ入費極メテ是ヲ辨
 スルニ足ルベシ器械ヲ有シ財ヲ出サズ工場建築ノ工
 アリテ工人為メニ利益ヲ増シ工料散シテ商民ヲ利シ
 併セテ人ノ耳目ヲ開キ製産繁富ノ助ヲ為ス然ラハ則
 前ノ概算當ヲ得ガルモ必ス國家ニ妨害無之トス得失
 一目瞭了ナラン歟

紙幣製造及鐵道建築家御雇入ノ儀
ニ付伺

紙幣製造ノ事

各藩藩々ニテ製造發行ノ紙幣總テ政府ノ紙幣ヲ以テ
御引換可相成ニ付テハ即今孝國ヲラクフアルトニ於
テ製造ノ紙幣ト同一ノ杜様ヲ以テ先般上野敬助彼地
ニ於テノ約條ニ基キ代價天成一ノ時限等尚實際便宜
ノ方ヲ取り左ノ合敷ノ紙幣増製造ノ儀右彫刻師ビト
ンドルフ會社へ申付假様致シ度

一紙幣五千萬圓

製造ノ合計

内

貳百万圓ハ

貳拾圓ノ紙幣

此紙幣數 十萬枚

八百万圓

拾圓ノ紙幣

此紙幣數
八十万枚

千万圓

五圓ノ紙幣

此紙幣數
二百万枚

千万圓

貳圓ノ紙幣

此紙幣數
五百万枚

千五百万圓

壹圓ノ紙幣

此紙幣數
千五百万枚

五百万圓

半圓ノ紙幣

此紙幣數
千万枚

紙幣合數

三千貳百九拾万枚

鐵道建築工人御雇入ノ事

先般御布告ノ通り東京ヨリ青森迄鐵道御設可相成ノ
處同地迄ハ山川寡ク平坦多ク橋梁坑道ノ工之ヲ東海
道ニ比スレハ甚ク容易ニ可有之殊ニ勉メテ簡易ノ製
作ヲ旨トシ經費ヲ省クヲ要ト致シ候ニ就テハ英ノ鄭
重ヨリ米ノ簡便ニ相依候方可然儀ト存候付テハ米國
鐵道建築工人ノ給料其期限等是亦便宜約定ノ上御雇
相成候様取計度方之二件御許可有之候ハ、今般遣歐
米御使節ノ向ヘ逐次示談ノ上製作並雇入共委任可致
ト存候依之相伺候也

辛未十一月

吉田大藏少輔
井上大藏大輔

正院御中

大藏省

書面紙幣製造詔方ノ儀ハ特命全權大使ノ相達候事